

「地域で暮らす」を知る、考える、広げる
**重度知的障害と呼ばれる人たちと
仲間の実践から**

2019年12月21日(土)

(9:30受付)10:00~17:00

会場:立命館大学 朱雀キャンパス308教室
京都府京都市中京区 西ノ京 朱雀町1

1部 (10:10~14:00 ※昼休憩含む)

映画「道草」上映&トーク

- 映画「道草」上映
- 対談 宍戸 大裕(映画「道草」監督)×立岩真也(立命館大学教授)
- 参加費 無料

2部 (14:00~17:00)

調査報告とパネルディスカッション

- 知的障害者の自立生活を支えるネットワーク・プラットフォーム構築事業から「関西地区での実践について」
知的障害者の自立生活についての声明文プロジェクト 田中恵美子(東京家政大学・女性未来研究所)
- パネルディスカッション
関西で知的障害者の自立生活の実践に関わる人たちがパネラーとして登壇します
- 参加費 500円 (当日受付で支払い)

**暮らしのあり方を
家族と暮らすか、施設で暮らすかと
制限されている知的障害のある人たち
ケア付き一人暮らしと言う
あたりまえなのに、新しい暮らし方を
知って、考えて、広げていきましょう**

企画協力 知的障害者の自立生活についての声明文プロジェクト
主催 NPO法人風雷社中
(日本社会福祉弘済会「2019年度社会福祉助成事業」)
共催 立命館大学生存学研究所

映画「道草」上映&トーク

○映画「道草」より～ストーリー

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。

自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。

世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。

東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。

タンポポの綿毛をとばし プランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。

叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わらなくなることで私たちは縮む。

だから人はまた、人に近づいていく。

○対談 宍戸大裕（映画「道草」監督）×立岩真也（立命館大学教授）

知的障害者の自立生活を支えるネットワーク・プラットフォーム構築事業

○調査報告「関西地区での実践について」&パネルディスカッション

●報告&コーディネーター

知的障害者の自立生活についての声明文プロジェクト

田中恵美子(東京家政大学・女性未来研究所)

●パネリスト

「社会福祉法人ぽぽんがぽん」「日本自立生活センター(JCIL)」より、知的障害のある人の自立生活の実践の関係者が登壇します。

○グループワーク

参加者とパネリスト等によるGWでの意見交換

アクセス

会場:立命館大学 朱雀キャンパス308教室
京都府京都市中京区 西ノ京 朱雀町1



申し込み 事前申し込み: 12月9日(月) 17時まで

定員: 70名(先着順、定員に達した時点で申込を締切ります。)

(1) メールで申込、件名: 「20191221地域で暮らすイベント申込」
以下の必要な情報を記入してください。

- ①氏名、②所属、③連絡先(メールアドレスや電話番号など)
- ④参加部分: a.全日参加、b.上映会のみ、c.報告会のみ
- ⑤必要な支援(情報保障)

申し込み用mailアドレス

arsevent@st.ritsume.ac.jp

(2) 電話申込: 075-465-8475 (平日9:00~17:30)

(3) FAX申込: 075-465-8245

上記の申し込み情報を記入してください。



※申し込みは立命館大学生存学研究所になります。

NPO法人風雷社中連絡先 mail: kaz@fuu-rai.org 電話: 070(5572)7004

「地域で暮らす」を知る、考える、広げる

重度知的障害と呼ばれる人たちと仲間の実践から